

平成22年度東かがわ市立白鳥中学校評価書

1 学校の概要

学 校 名	東かがわ市立白鳥中学校			校 長	水 口 実			
学校住所	〒769-2705			TEL	(0879) 25-1365			
	東かがわ市白鳥757番地2			FAX	(0879) 24-0821			
生徒数 学級数等 (22.5.1)	男 子	147名		HP	http://www.higashikagawa.ed.jp/jh/shirotori/			
	女 子	147名		E-mail	shirotori-jh@higashikagawa.ed.jp			
	1年	2年	3年	特別支援	合計			
	102名	95名	93名	4名	294名			
	3学級	3学級	3学級	2学級	11学級			
	校長 教頭	1名 1名	教員 養護	21名 1名	事務 栄養	1名 1名	市職員 支援員	1名 1名
学校教育 目 標	「確かな学力と豊かな人間性を持ち、主体的に生きる生徒の育成」 校訓（自主・剛健・優美）							
経営の 重点	<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力、主体的な学びを育てる学習指導の推進 2 生徒理解と生徒指導の充実 3 豊かな人間性や社会性の育成 4 人権・同和教育の推進 5 健康で安全な学校づくりの推進 6 教職員の能力・資質向上と主体的な経営参画の推進 							
指導の 重点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎・基本の確実な定着を図るため、生徒の個性を生かした教育を推進する。 ○ 学ぶ意欲や学び方を身に付けさせるため、学習指導の工夫・改善を図る。 ○ 望ましい人間関係及びいじめ・不登校の解決に向け、個に応じた指導をする。 ○ 人権尊重の精神に徹し、差別解消への意欲と実践力を育てる。 ○ 教育専門職としての資質を磨き、指導力の向上を図る。 							
学習に関 する内容 (23.3 見 込み)	総授業時間数		総合的な学習の時間の概要					
	1年	1100h	環境学習（花植え、海岸清掃、出前授業）、進路学習（職場調べ）					
	2年	1106h	職場体験学習（市内45事業所）、平和学習（広島・長崎原爆等）					
	3年	1060h	平和学習（沖縄修学旅行）、課題研究、進路学習（高校調べ）					

2 学校教育評価

	評価項目	達成状況	自己評価	学校関係者評価	改善に向けて
確かな基礎学力の定着	◎基礎的・基本的学力の定着、伸長のために適切な指導が計画的に行われているか。				
	・全教科で「基礎・基本の徹底」と「コミュニケーション能力の育成」の取組を行う。	・6月24日の学校訪問で公開授業を行い、指導を受け、課題を明確にし、2・3学期の実践に取り組んだ。	B	B	・生徒指導の研究とも関連しているので、引き続き実践していく。
	・少人数指導の工夫・改善を図る。(数・理・英)	・学習状況調査結果を見ると前年度よりは向上しているが、全体的に十分な成果が上がっていない。96%の生徒が少人数授業は分かりやすいと回答している。	B	B	・県へ引き続き加配を要望するとともに、各教科の授業改善を行う。
	・分かる授業を展開する。	・各教科平均84%の生徒が授業が分かると回答している。	A	A	・さらに分からせる工夫を行う。
	・補習や学習会を実施する。(休業中・放課後)	・昨年より多く実施できた。	A	B	・次年度も継続していく。
心豊かな温かい人づくり	◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。				
	・道徳教育を充実させる。(あいさつ・礼儀)	・学年団で道徳の授業に取り組み、あいさつはよくできていた。	B	B	・日常生活の中で実践に心がける。
	・日常の生活の中できまりやルールを守る。	・一部の生徒の自転車のマナーが悪かった。	B	B	・学校全体として積極的に取り組む。
	・ボランティア活動に積極的に取り組む。	・生徒会を中心に、自主的に募金活動や清掃活動に取り組んだ。	A	A	・生徒会の自主性をさらに伸ばし活用する。
・人権講演会を開催し、人権教育を推進する。	・12月に公開授業・講演会、2月に講演会を実施し、人権意識の高揚に努めた。	A	A	・日常の人権教育にも力を入れる。	
たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康なたくましく生きる力を培うことができているか。				
	・学校行事の在り方について改善を図る。	・学期毎に職員からアンケートを取り、改善した。	A	A	・引き続き改善を進める。
	・総合的な学習の時間の効果的な活用をする。	・1年環境学習、2年職場体験学習、3年平和学習を通じて生きる力を伸ばす取り組みを行った。	A	A	・新教育課程へ向けて在り方の見直しを行う。
・部活動の充実を図る。	・各部が毎日熱心によく練習し、総体や新人大会で優勝や入賞し、四国・全国大会へ出場した。	A	A	・日々の活動を充実させ、さらによくするよう継続する。	

	・病気やけがをなくし、健康安全に心がける。	・毎月、数件のけががあったが、昨年より減少した。	B	B	・健康安全の予防面を強化していく。
教職員組織と研修	◎教育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。				
	・県や市及び香中研等の研修会に参加させる。	・全教職員が研究会や研修会に参加して、自己研さんに努め、適宜、現職教育で報告し、共有化を図った。	A	A	・自己研さんのため継続して研修を進める。
	・香中研生徒指導の研究を推進させる。	・生徒指導の研究に当たって、研究組織を構築し、先行研究の調査、県外先進校視察や大学の先生を指導者に迎え、研究を推進した。	A	A	・平成24年度の香中研生徒指導研究会に向けて、研究を深める。
	・学校訪問を受ける。	・6月24日に教育事務所や市教委から全体的な指導を受けるとともに、3分の1の職員が個別指導を受け、指導力の向上を図った。	A	A	・さらに県や市教委の指導を受ける。
保護者・地域との連携	◎学校教育充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。				
	・年間3回学校開放日を受け、保護者や地域に開放する。	・体育大会や文化祭・合唱コンクールには、多くの地域の人や保護者が来校した。合唱コンクールは、新築の交流プラザで実施した。	A	A	・学校開放を引き続き行い、保護者啓発に努める。
	・学校からの情報発信を積極的に行う。	・学校だより、学年だより、保健だより、ホームページ、メール配信等により、積極的に情報発信を行った。	A	A	・情報発信の方法や内容を検討する。
	・地域の行事に参加する。	・1年生が潮越し海岸清掃に、吹奏楽部が交流プラザのオープニングセレモニーに参加した。	B	A	・どの地域行事に生徒が参加しやすいか検討する。
施設・設備	◎生徒が安全に楽しい学校生活を送れる施設・設備になっているか。				
	・毎月20日を校内安全点検日として、点検・改善を行う。	・環境整備担当、営繕担当を中心に環境整備や修繕ができ、教育環境が美しく維持された。	A	A	・定期点検を確実にし、教育環境の美化に心がける。
	・長期休業中等に業者による点検・修理を行う。 ・耐震工事(北校舎、トイレ)、太陽光発電工事を長期休業中に行う。	・担当が修繕できない場合、業者に依頼し、改善できた。 ・安全に耐震工事等が行われた。	A	A	・来年度は普通教室、特別教室へのエアコン取り付け工事の予定である。

3 保護者等のアンケート結果

・前期保護者アンケート結果より

評価の高い項目は、「学校へ行くのが楽しい」、「仲が良い友だちがいる」、「部活動に意欲的に取り組んでいる」、「中学生らしいきちんとした服装で学校生活を送っている」である。これらから、きちんとしたみなりで学校生活を楽しく過ごし、部活動に意欲的に取り組んでいると思われる。

評価の低い項目は、「学習方法を工夫している」、「家庭で本を読んでいる」、「気軽に話したり、相談したりできる先生がいない」である。これについては、学習方法の工夫改善に取り組み、スクールカウンセラーや心の相談員・養護教諭等のネットワークを作り相談活動を充実させ、家庭との連携を深めながら改善していく必要がある。

・後期保護者アンケート結果より

評価の高い項目は、「楽しく生き生きと個性豊かに生活している」、「文化祭や合唱コンクール等の学校行事に積極的に参加している」、「部活動に意欲的に取り組んでいる」である。これらから生徒は楽しく意欲的に学校行事や部活動に取り組んでいると思われる。

評価の低い項目は、「家庭で本を読んでいる」が特に低いが、他の項目はそれほど低い項目は見当たらなかった。これについては、前期アンケート同様、家庭との連携を深めながら改善していく必要がある。

4 自己評価講評

・教職員のアンケート結果より

評価の高い項目は、「少人数指導」、「教科に関する評価」、「道德教育」、「生徒指導」、「文書管理」、「家庭への情報発信・連携」、「学校図書館・朝読書」などであり、前年度よりもポイントが高くなっている。これは、学校課題である基礎学力の向上と自尊感情の高揚に取り組んだ成果であると考えられる。

評価の低い項目は、「特色のある学校づくり」、「適正な校務分掌」、「教科間の連携」、「障がい者理解の推進」、「小中連携」などであり、前年度より少しずつポイントは高くなっているものの、低い状態が続いている。全般的に連携に関するものが不十分であるので、できるところから少しずつでも改善を目指して取り組んでいきたい。

学習面では、国や県の学力・学習状況調査の結果から、「関心・意欲」は高いものの、「知識・理解」に課題があるので、さらに授業改善に取り組んでいきたい。

5 学校関係者評価講評

・学習面は、先生方の取り組みでアンケートからも高く評価できる。しかし、後期になるにつれ、生徒アンケートでは、全般的に「あまり思わない」が多くなっているため、不安を感じる。個人について、授業中の自分の意見を発表している項目が、6～7割と低い。地域では元気よくあいさつをしてくれる生徒なので、工夫が必要である。

・子どもたちが、学校が楽しい、部活動に真剣に意欲的に取り組んでいることは、心と体が充実しているからだ。特に、生徒が困っていた人に手を差し伸べたという学校だよりの記事を見て、豊かな人間性が芽生えている思いを受けた。自尊感情の高揚に取り組んだ結果が実ったと言える。また、ボランティア活動や職場体験を通して、子どもたちの思いやりの心ややさしさ等道徳的な心が育ち、善意の行為につながったと思われる。

- ・保護者アンケートでは、子どもと先生とのコミュニケーション、話したり相談したりしているとはあまり思わないとの結果があり、子どもたち同士のいじめなどに発展していくように思われる。
- ・家庭では親、学校では先生が子どもたちの重要なキーポイントであり、親、保護者からの不満が見られる。学校に対して依存傾向、押しつけ傾向があるが、一番解決しにくい問題であり、真剣に対処すべき時期である。
- ・教職員の自己診断が低い人権・同和教育、連携において、同様に、生徒も関心が低いと思われる。生徒の教育は、教職員が鏡となるので、今後、教職員の関心度の向上が、生徒の人間形成に影響されてくると思われるので、期待する。
- ・特色のある学校づくりは、目に見えるものだけではない。校訓を基に個々に合わせて伸ばせている。また、学校だより等を何回も発行されているので、保護者にも子どもたちにも様子が伝わり、保護者との連携ができています。さらによい学校になるよう保護者、地域との連携を期待する。